

# タイ

## 10～12月期の景気は減速

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部  
 研究員 塚田 雄太  
 E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

### 2016年10～12月期、国王崩御に伴う自粛ムードが景気を下押し

タイ景気は足元で弱含んでいる。この背景には、16年10月13日にプミポン前国王が崩御したことに伴い、国民の間に自粛ムードが広がっていることがある。

とりわけ、民間消費の減少が顕著である。10月の民間消費指数は、前月比 1.5%となった(右上図)。財別にみると、多くの国民が弔意を示すために黒色系の服などを購入したため半耐久財は同+0.1%と増加したものの、それ以外の財は軒並み減少となった。特に大きく減少したのが、耐久財(同 4.4%)とサービス消費(同 4.5%)である。耐久財消費の減少は単なる先送りであり、将来的に需要水準の反動増も見込まれるため、経済全体への影響は限定的と思われる。しかし、サービス消費の減少分は性質上取り戻すことが難しいため、自粛ムードが長引くことによる景気への影響が懸念される。

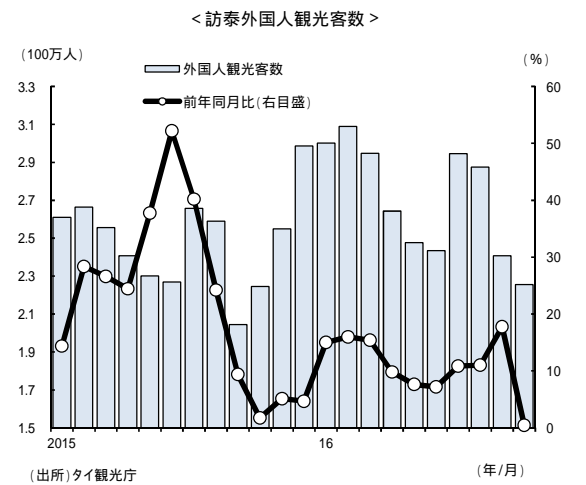
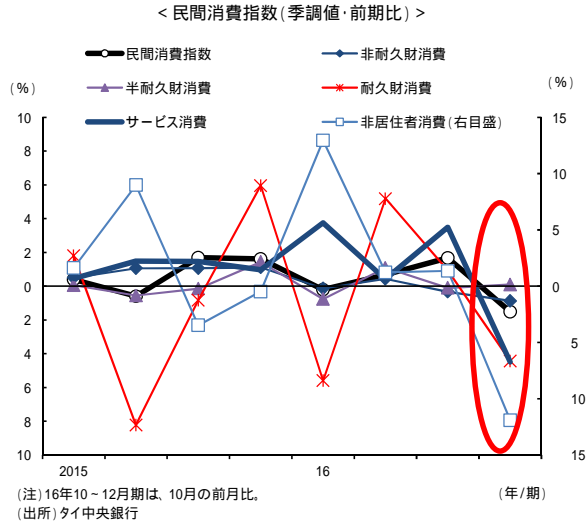
また、訪泰外国人観光客による消費を表す非居住者消費も同 11.9%と大幅減となった。外国人が同国への旅行や出張を取りやめたため、10月の訪泰外国人観光客数は前年同月比+0.5%と大幅に減速した(右下図)。さらに、自粛ムードの影響を受けて、一人当たり支出額も減少したことが窺える。

自粛ムードが崩御後100日を迎える17年1月下旬頃まで続くことと見込まれることや財輸出も弱い動きとなっていることを踏まえれば、10～12月期の成長率は前期から減速した可能性が高い。

### ワチラロンコン皇太子殿下が新国王に即位

景気が減速感を強めるなか、政府は12月1日にプミポン前国王の長男であるワチラロンコン皇太子が新国王・ラーマ10世に即位したことを発表した。新国王への王位継承が大きな混乱なく実行されたことは、タイ経済の先行きに対する好材料となる。

一方で、新国王には即位直後から、新憲法の交付や総選挙、民政移管など同国の将来を左右する重要な政治イベントが待ち構えている。また、「タクシン派」と「反タクシン派」の対立が根本的な和解に至っていないなかで、民政移管後に両者の対立が再び顕在化すると懸念も根強い。混乱を回避し、同国に政治的安定をもたらすことができるか否か、新国王の求心力と指導力が注目される。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。